

## 令和1年度 事業報告書

特定非営利活動法人 3keys

## 1 事業の成果

学習支援事業では、虐待などの環境下で、幼少期から学習の基盤となるような体験（絵本の読み聞かせ、コミュニケーションなど）や、学習環境などが十分でなく、小1時点で大幅な学習遅れがある／あった主な小学生への学習支援「教室型プログラム」を展開しました。前年度より、市販教材の組み合わせでも支援が困難だった子どもたち向けのオリジナル教材作成を行ったことで、成果が出る子どもたちの幅が増え、利用している児童養護施設でも成果を実感できることが増えてきました。それに伴って、新たに2つの施設で支援を展開することにしました。児童養護施設だけでなく、母子生活支援施設も支援対象に加わり、より多くの子どもたちの支援につながりました。

15歳以上の子どもたちの支援事業「COSTA」も引き続き実施いたしました。新しく作られた大学無償化の奨学金申請や、塾などに通う経済的余裕のない子ども・若者の支援を実施しました。LINEでの問い合わせ窓口を追加したことで、子どもたちからの問い合わせは増えてきましたが、立地面や、働きながら学習を続けることの難しさなどから、通い続けることが難しいケースが多く、子どもたちが利用しやすい環境をどう整えるか課題となっています。交通費補助制度を作ったり、食事提供を開始する等、様々な工夫を行っています。なお、コロナウィルスの影響によって、3月は休止といたしました。

子どもの権利保障推進事業では、主に10代向けの支援サービス検索・相談サイト「Mex（ミークス）」によって、子どもたちの悩みや相談の受け皿作りを継続して行いました。前年度の約3倍となる、100万人以上の利用が見られ、内12,000人がどこかの支援機関とつながることができました。利用者が増えたことに対して、相談件数はあまり増えておらず、相談にハードルを感じている子どもたちが多くいることを実感しており、その部分の対策が今後大事になってくると感じています。

更に、10代にとってテレビよりもなじみのあるインターネット動画（Youtubeなど）による啓発動画「ミーのなやみ」は、「家族・親戚編（虐待編）」に続き、「恋人・パートナー編（デートDV編）」の全5編の作成を行いました。コロナウィルスによって虐待やDVが増えることを懸念し、これらの啓発も積極的に行いました。

啓発活動事業では、当法人の10周年を記念し、東京にてChild Issue Seminarの特別編を開催いたしました。尾木ママを講師として迎え、子どもたちの学校やいじめなどを取り巻く現状、それに対する大人や親としての責任などについて考える機会を設けました。東京以外では札幌にてセミナーを開催し、インターネットにしか頼れない子どもたちのニーズについて啓発をし、各地のNPOと当法人とで連携できることなどを考えました。その結果、子どもの権利保障推進事業で連携できる団体や支援機関とのつながりも増やすことができました。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【53,954】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
格差の下にいる子どもたちをはじめとする、学習機会や学習環境に恵まれない子どもたちのために、学習指導を行うボランティアを育	1. 児童福祉施設向け放課後教室運営「教室型プログラム」 ・主に小学生向けに基礎学力の向上を目的とした学習支援 ・オリジナル教材作成および提供 ・新たに児童養護施設1施設、母子生活支援施設1施設が支援対象に加わりました。	1,2 通年	1. 東京都・神奈川県	職員 4名、業務委託 1名、ボランティア 8名	1. 児童養護施設および母子生活支援施設に入所中の主に小学生(一部中高生)	1. 61名(4施設)	14,676
	2. 高齢児向け無料個別指導「COSTA(コスタ)」 ・15～22歳の高齢児向けの学習支援拠点の運営 ・児童福祉関連施設や、定時制高校・通信制高校、オ		2. 東京都新宿区		2. 15～22歳の通塾・家庭教師を利用していな	2. 43名(延べ)	

成し、マッチングする事業(通称:学習支援事業)	<p>オンラインなどを活用した広報活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LINEによる問い合わせ体制の開始</li> <li>・食事提供、交通費補助の開始</li> </ul> <p>3. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童福祉施設への訪問型学習支援の実績・ノウハウの整理および各地にノウハウ提供していくための準備</li> </ul>	3. 2020年1月～	3. 東京都		い方	3. 特になし	3. 特になし	
子どもたちに必要な社会資源をコーディネートし子どもたちの自立及び権利保障を充実させる事業(通称:子どもの権利保障推進事業)	<p>1. 10代向け支援サービス検索・相談サイト「Mex(ミックス)」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の子どもの支援サービス(3月末時点:219サービス)の掲載</li> <li>・10代向けのコラム配信46件(動画9本含む)</li> <li>・Google、Twitter、Instagramなどを活用した10代向けのサイトの広報活動</li> <li>・札幌でのセミナー開催及び広報活動(第21回目 Child Issue Seminar 内)</li> <li>・利用状況の報告(第22回目 Child Issue Seminar 内)</li> </ul> <p>2. 子どもの権利の啓発動画「ミーのなやみ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デートDV啓発のための「ミーのなやみ～恋人・パートナー編～」計4本配信</li> <li>・Youtube、Instagram、Twitter、新聞などでの広報</li> </ul>	<p>1. 通年</p> <p>2. 通年</p>	1、2. 全国	職員5名 アルバイト5名	10代～22歳程度	<p>1. 利用者1,008,433名 支援機関につながった数11,508件</p> <p>2. 21,338再生(8678人)</p>	23,104	
日本の子どもたちの現状や、それを取り巻く社会の現状を広域的に周知するための、啓発活動及び広報活動(通称:啓発活動事業)	<p>1. 「Child Issue Seminar」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第21回目「インターネット、SNS、10代に寄り添う～SNSを活用した相談支援の現場から～」(講師:一般社団法人社会的包摂サポートセンター 広報担当/SNS担当 広瀬麻弥氏)</li> <li>・第22回目「すべての子どもたちが安心して暮らすために」(講師:教育評論家・臨床教育研究所「虹」所長 尾木直樹氏)</li> </ul> <p>2. その他、講演・執筆をはじめとした啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演回数11回(徳島県立人権教育啓発推進センター、トレンドマイクロ株式会社、ソーシャルビジネス研究会、一般社団法人部落解放・人権研究所、一般社団法人なでしこケア、日本ファンドレイジング協会等)</li> <li>・メディア掲載(執筆含む)31回 ※重複あり。こちらで把握しているもののみ。</li> <li>▼テレビ:1回(北海道放送)</li> <li>▼ラジオ:1回(NHK 第一)</li> <li>▼新聞:9回(西日本新聞、読売新聞、神奈川新聞、朝日新聞、共同通信等)</li> <li>▼Web記事:15回(Yahoo!ニュース、ハフィントンポスト、マイナビ、Nikkei Asian Review、朝日新聞、NHK、日経MJ、withnews等)</li> <li>▼その他雑誌・機関紙・書籍:5回(教育技術、「月刊福祉」、パルシステム媒体『のんびる』、『社会事業家100人インタビュー』等)</li> <li>・年次報告会開催(第22回 Child Issue Seminar 内)</li> <li>・Google や Facebook を活用した広報活動</li> <li>・チャリティ商品の販売による啓発活動</li> </ul>	<p>1. 第21回目 2019年7月11日(札幌)</p> <p>第22回目 2019年8月31日(東京)</p> <p>2. 通年</p>	1. 東京都、札幌	職員6名 アルバイト1名	制限なし	<p>1. 289名</p> <p>2. 595名(講演参加者数)</p>	16,173	

(2) その他の事業

(事業費の総費用【                      】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	事業費(千円)